

北の大地とともに

CSRレポート 2009





私たちは北海道生まれ、
北海道に育てられた道産子企業です。

CONTENTS

01P コカ・コーラシステム概要

02P 北の大地とともに

03P ごあいさつ

環境

04P [環境経営] 北海道の美しい自然を愛する企業市民として。

06P [マテリアルバランス] 環境への影響を「見える化」して改善しています。

08P [環境保全への取り組み] 省エネルギーを追求し、温室効果ガス排出低減に努めています。

10P 自然な環境を守るため、できることを一步一步。

12P 美しい北の大地を守るため、大切な資源もぐるぐるとまわそう。

14P [環境コミュニケーション] 未来へ想いをつなぎ、豊かな夢を咲かせたい。

市場

16P [安全な製品の提供] さらに安全と安心を追求していきます。

18P [アクティブで健康的な生活の提案] あっ、ここにも、あそこにもコカ・コーラの応援が。

社会

20P [地域社会への浸透と貢献] 地域のたくさんの笑顔、明日につなげるために。

22P 人々の暮らしの中に「安全・安心の心」を届けたい。

24P ネットワークで築く安全・安心と魅力的なまちづくり。

職場

26P [最高の職場としての誇り] いま企業としての責任と行動力が求められています。

28P [工場見学/プロフィール] 明るい北海道の未来のために、一所懸命な会社です。

【CSRレポートバックナンバー】

バックナンバーは下記の当社ホームページでご覧いただけます。

<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/company/csrreport.html>



CSRレポート2006

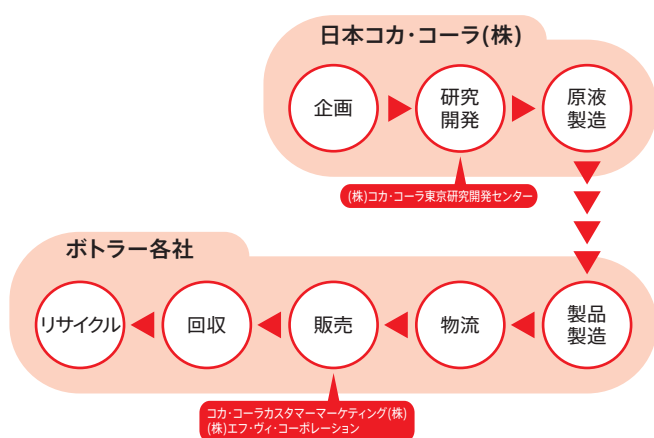


CSRレポート2007



CSRレポート2008

コカ・コーラシステム概要



環境問題や健康意識の高まりなどによって、私たちコカ・コーラシステムをとりまく事業環境は大きく変化し、お客さまからコカ・コーラシステムに期待されることも変わります。私たちコカ・コーラシステムがこれからも成長し続けていくためには、安全・安心な製品を提供することはもちろんのこと、企業の社会的責任を果たすことでお客さまからのニーズに応えていくことが不可欠となっているのです。

コカ・コーラシステムでは世界各国のボトラー社の代表と協議を重ね、企業としてだけでなく、社会とともに持続的に成長するための新しい事業指針「Live Positively (リーブ・ポジティブリー) -世界をプラスにまわそう-」を全世界で導入しています。

環境

- 地球の温暖化防止
- 容器の軽量化/リサイクル
- 水資源保護

市場

- 安全な製品の提供
- あらゆる人々のニーズに応える製品価値の提供
- アクティブで健康的な生活の提案

社会

- 地域社会への浸透と貢献

職場

- 最高の職場としての誇り

北の大地とともに

経営理念

私たちは、21世紀の創発的な社会に貢献する。

経営指針

私たちは、

1. 生活者やパートナーに「さわやかさと潤い」を提供します。
2. 生活者やパートナーとの共存共栄を図るとともに地域社会に貢献します。
3. 変革にチャレンジし、活力ある創発的な企業グループをつくります。

社員行動規準

- ・私たちは、常に「さわやかさと潤い」を届けます。
- ・私たちは、生活者やパートナーとのコミュニケーションを大切にします。
- ・私たちは、一人ひとりがさわやかな存在になります。
- ・私たちは、時代の変化に適応し変革を起こし続けます。
- ・私たちは、「環境に、地域に優しい」企業活動を実践します。
- ・私たちは、良き「企業市民」として社会に貢献します。

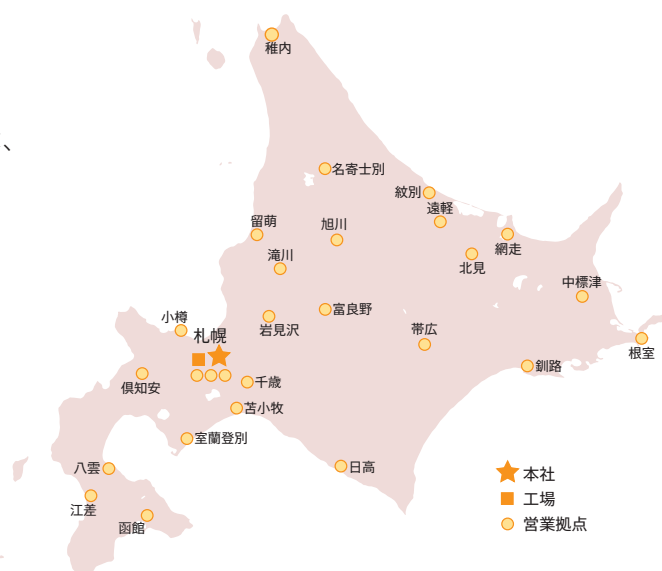
中期経営計画

Restart2009～北の大地とともに～

『私たち北海道コカ・コーラグループは、収益力の強い経営基盤を確立し、北海道の魅力をさらに高める活動を、継続的に実行します』

さわやかさのネットワーク

北海道コカ・コーラボトリングのさわやかさのネットワークは、札幌の本社を中心に広く全道各地に拠点網を形成しています。この北海道で、いつでも、どこでも、だれにでも、変わらない味をお届けできるのも、地域に密着したネットワークがあるからこそ可能なのです。



ごあいさつ

私たち北海道コカ・コーラボトリング株式会社ならびにグループ各社は、「北の大地とともに」成長することを願い、道産子企業として、地域やパートナーのみなさまとの「対話」を大切に、北海道の魅力さをさらに高める活動を継続的に実行することで、北海道で生活されるみなさまや北海道を訪れるみなさまに信頼され、選ばれる企業グループとなることを目指しています。

私たちは、北海道の広大な大地に育まれたおいしい「水」と、北海道で生産された良質の砂糖やミルクなどの原材料を使って、北海道にある工場で、各種の飲料やミネラルウォーターを製造して、事業活動を展開しています。

私たちが果たすべき役割は、みなさまに、常に、安全・安心かつフレッシュな製品をご提供することを基本に、大切な「水」を守るために環境にかかわる活動に精一杯の努力をすることと、これまで以上に北海道のお役に立てる活動をしていくことと考えています。

これからも、北海道に生まれ、北海道に育てられた道産子企業として、北海道のみなさまとともに「持続可能な社会」を実現するために、積極的な活動を続けていきたいと考えています。

このレポートをお読みいただき、当社グループの考え方や活動に対する、より多くの方々のご理解をいただき、ご意見やご協力をいただければ幸いです。



代表取締役

角野中原
Kakuno Chugen

北海道の美しい自然を愛する 企業市民として。

環境理念

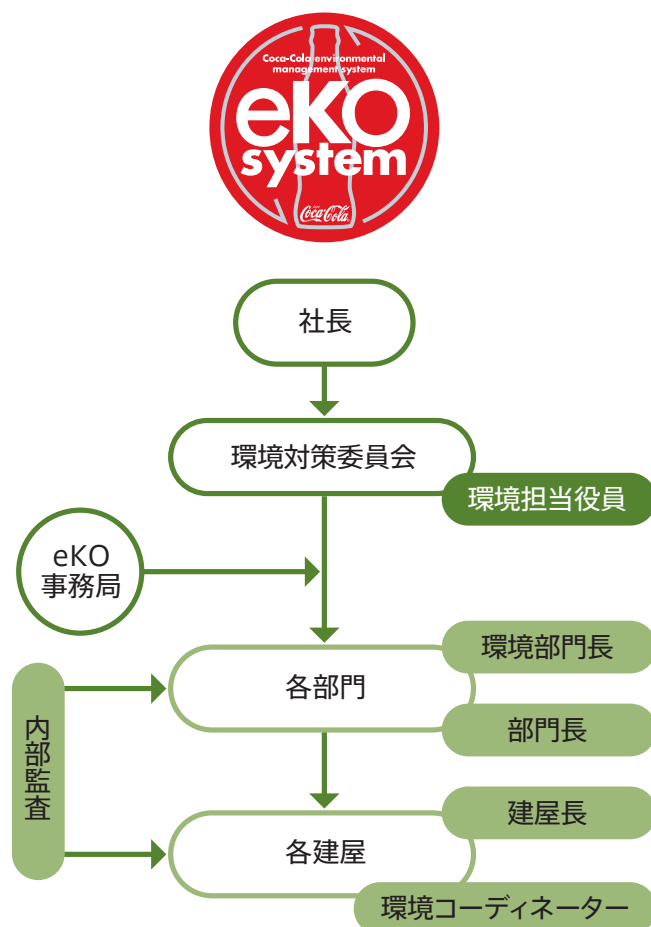
北海道コカ・コーラボトリング株式会社は、責任ある企業市民として、地球環境の保全に配慮した企業活動を行い、地域社会の豊かな環境の維持と社会の継続的な発展に貢献します。

環境行動指針

1. 環境関連法規、規制、条例、地方自治体との協定を遵守します。
2. 企業活動に伴う廃棄物の削減と再資源化を促進します。
3. 省エネルギー、省資源に努め、環境負荷を低減します。
4. 環境に配慮した物品の購入（グリーン購入）を促進します。
5. 飲料容器の散乱防止の啓もう活動を行うとともに、地域社会の環境美化活動を支援します。
6. 環境保全に対する全社員の意識向上を図り、全社を挙げて環境保全活動に取り組みます。

環境への取り組み

当社の環境理念・環境行動指針をより積極的に実践するために、コカ・コーラシステム独自の環境マネジメントシステム「eKOシステム」を導入しています。eKOシステムは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001等を参考にして、清涼飲料業界の事業形態に適合するよう設計されており、世界各国のコカ・コーラで構築・運用を推進しています。

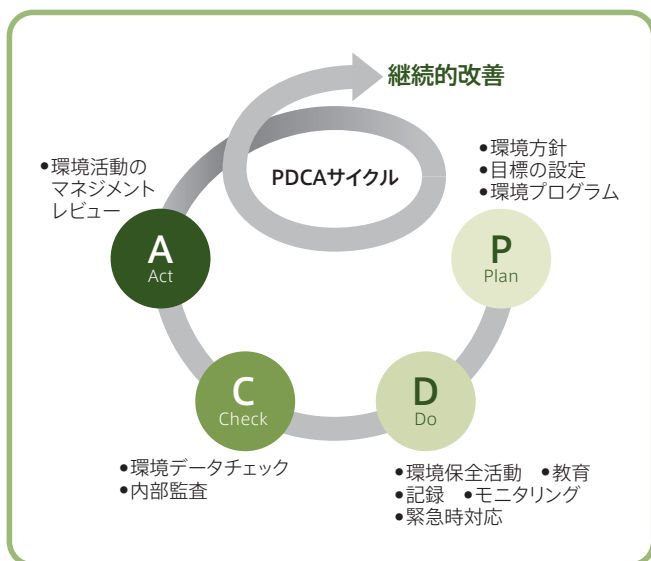


環境に優しい企業活動に
努めています。



eKOと「PDCAサイクル」の仕組み

eKOシステムは、コカ・コーラシステムの環境理念と環境方針のほか、eKOシステムの要求事項等を規定した「eKOスタンダード」を中心として構成されています。これは環境方針に基づいた業務活動の「Plan(計画)－Do(実行)－Check(点検)－Act(見直し)」をひとつのサイクルとして繰り返し行い、環境に与える影響を特定して継続的に改善する仕組みとなっています。



3つの負荷低減を目指します

eKOシステムは、清涼飲料業界の主な環境負荷である3つの項目を中心に、さまざまな環境改善プログラムを実施します。



水の使用量

水の有効利用に取り組むとともに、排水量を削減します。



エネルギー使用量

エネルギー利用の効率化を図り、CO₂などの大気への排出量を削減します。



廃棄物発生量

原材料使用量を適切に管理し、廃棄物の削減・再資源化も推進します。

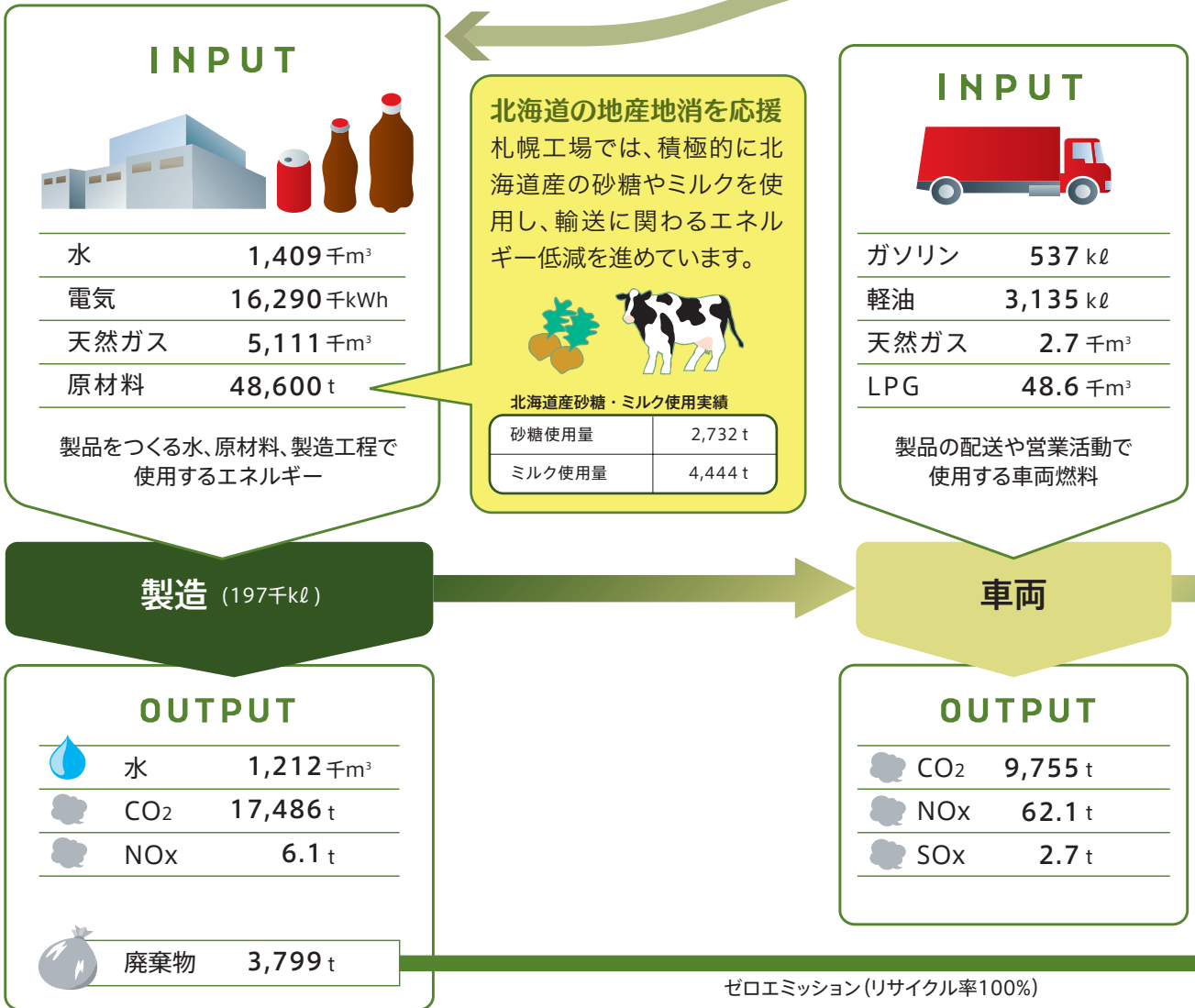
※eKO(イー・ケー・オー)とは、ニューヨーク証券取引所におけるザ・コカ・コーラカンパニーの呼称"KO"に、"environment"(環境)の頭文字を組み合わせたものです。

「グリーン経営認証」を取得

グループ会社の幸楽輸送(株)は、2006年1月に社団法人全日本トラック協会が認定する安全性優良事業所の「Gマーク」を全事業所で取得。2006年11月には、交通エコロジー・モビリティ財団が認定する「グリーン経営認証」を取得しました。同社では事業所や車両に両認定マークやステッカーを掲出して、積極的に安全運行や環境保全に努めています。

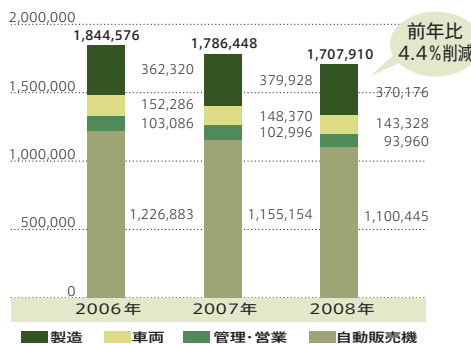


環境への影響を「見える化」して改善しています。

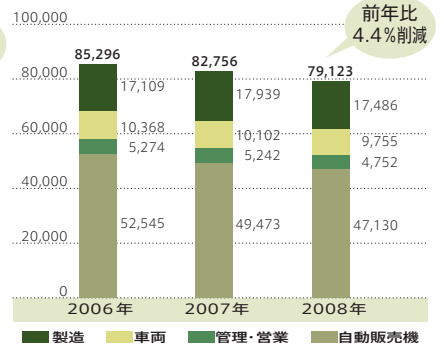


※集計方法については13Pをご参照願います。

エネルギー使用量(熱量換算)の推移 (G)



CO₂ 排出量の推移 (t)



※四捨五入のため、合計が合わない場合があります。

※四捨五入のため、合計が合わない場合があります。

部門ごとに環境への負荷を把握し、
継続的な改善活動を行っています。



びん・缶・PETボトルの
リサイクル



INPUT

水	20 千m ³
電気	6,191 千kWh
灯油	456 kℓ
重油	244 kℓ
天然ガス	156 千m ³
LPG	4.2 千m ³

事業所、オフィス、物流倉庫で
使用するエネルギー

INPUT

電気	111,948 千kWh
----	--------------

自動販売機が
使用するエネルギー

管理・営業

自動販売機

回収・リサイクル

空容器 回収・リサイクル量	1,014 t
ダンボール 回収・リサイクル量	1,514 t

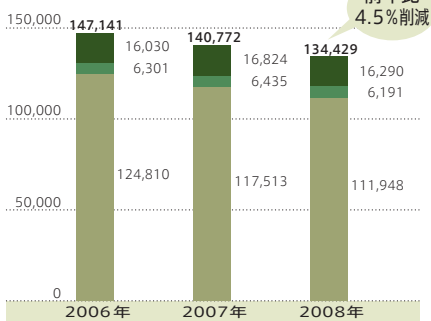
OUTPUT

水	20 千m ³
CO ₂	4,752 t
NO _x	1.5 t
SO _x	2.2 t

OUTPUT

CO ₂	47,130 t (発電に伴う排出)
-----------------	-----------------------

使用電力量の推移 (千 kWh)



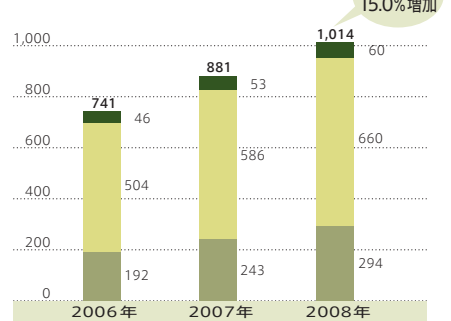
製造 管理・営業 自動販売機
※四捨五入のため、合計が合わない場合があります。

水使用量の推移 (千 m³)



製造(井水) 管理・営業(上水) 管理・営業(井水)
※四捨五入のため、合計が合わない場合があります。

空容器回収量の推移 (t)



アルミ缶 スチール缶 PET ボトル
※四捨五入のため、合計が合わない場合があります。

省エネルギーを追求し、 温室効果ガス排出低減に努めています。

エコドライブ宣言

車両から排出されるCO₂などの削減に向けて、当社グループ全体で6項目の「エコドライブ宣言」を行いました。事業所内や各車両にポスターやステッカーを掲出し、エコドライブ講習会などを通じて意識を高め、環境にやさしい運転に努めています。



クリーンエネルギー車の導入

ハイブリッド車、LPG車、CNG (圧縮天然ガス) 車など、CO₂や粒子状物質 (PM)、窒素酸化物 (NO_x) 等の排出が大幅に少ないクリーンエネルギー車を導入しています。



知床地区に導入したハイブリッド車

クリーンエネルギー車導入台数

ハイブリッド車	38台
LPG車	4台
CNG (圧縮天然ガス) 車	1台

※2009年3月末現在

従業員コメント

幸楽輸送株式会社 業務統括部 安全運転推進部 佐野 将志

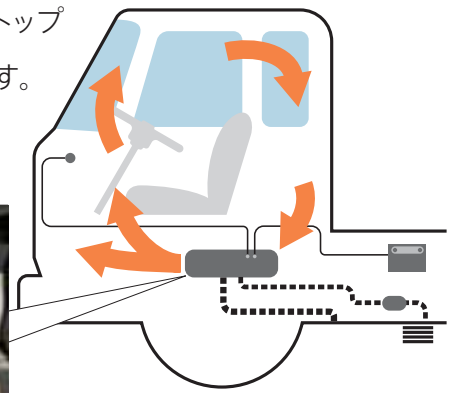
「ドライブレコーダー」や「デジタルタコグラフ」によって記録された各ドライバーの走行データを分析し、季節や状況に合った走行や危険回避方法、環境にやさしい運転方法を指導しています。みなさまに信頼される企業を目指し、これからも留まること無く一丸となり進み続けます。

※デジタルタコグラフとは？ 効率的な運行管理と安全運転意識の向上のために、運転時の速度やエンジン回転数などを記録するシステムです。



アイドリングストップの推進

グループ会社の幸楽輸送(株)では、冬期間の待機時間中にアイドリングで消費する燃料を最小限に抑えるため、全車両に軽油燃焼式エアヒーターを導入し、アイドリングストップを実施しています。



ドライブレコーダーを全車両に導入

幸楽輸送(株)では、全車両にドライブレコーダーを搭載しています。走行時のカメラ映像や音声記録、速度センサー、重力センサー、GPSの走行記録等のデータをもとに指導を行い、ドライバーの安全運転やエコドライブ意識の向上を図っています。

私たちは北海道の
「きれいな空気」を守ります。



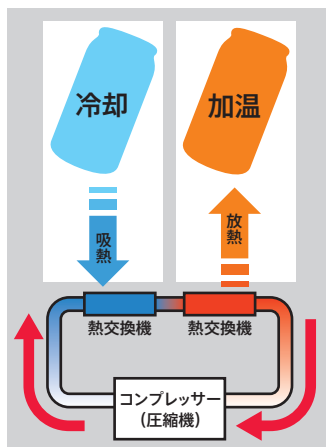
自動販売機も環境に配慮しています

1) 省エネ型自動販売機の導入

1995年より、蛍光灯の調光機能をはじめ、夏場の電力消費ピーク時に電気の使用をカットするピークカット機能や、冷却効率を大幅に向上させた「省エネ型自動販売機」を積極的に導入しています。現在では、全稼働台数の95%以上を占めており、1991年型機に比べ50%以上の省エネを実現しています。

2) ノンフロン・ヒートポンプ自動販売機の導入

2005年より、フロンを使用しない自動販売機を段階的に導入し、2020年までに全面的に切り替えます。2008年からはノンフロンに加え、効率的な加温・冷却による省エネを実現するヒートポンプ技術を使用した「ノンフロン・ヒートポンプ自動販売機」の導入を進めています。



ヒートポンプの仕組み

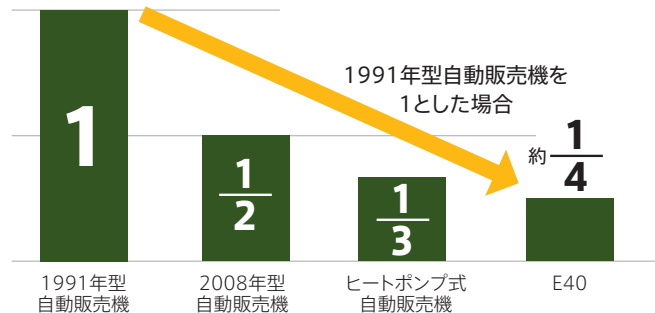
イーフォーティ 3) 「E40」の導入

「E40」は、通常の自動販売機に比べ、消費電力を40%削減したノンフロン・キャッシュレス自動販売機です。ヒートポンプ技術や熱漏れを防ぐ高性能真空断熱材、蛍光灯に比べて大幅な消費電力の削減が可能なLED照明を採用し、国内トップクラスの省エネ性能を達成しています。



E40

自動販売機の消費電力の比較



4) 自動販売機の消灯を実施

さらなる省エネを目指した活動として、屋外設置自動販売機の昼間消灯や屋内設置自動販売機の24時間消灯の取り組みを進めています。



24時間消灯のステッカー

自然な環境を守るため、 できることを一步一步。

容器の軽量化

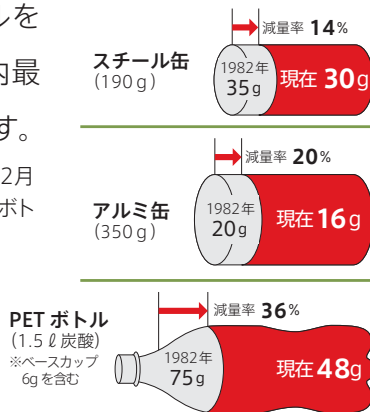
コカ・コーラシステムでは、省資源化を目指して容器の軽量化を進めています。

特に、ミネラルウォーター「森の水だより」の2ℓ PET ボトルには38g、「い・ろ・は・す」の520mℓ PET ボトルには12gのボトルを採用し、いずれも国内最軽量(※)となっています。

※2ℓPETボトルは2008年12月時点/国内製造品2ℓPETボトルを対象。

520mℓPETボトルは2009年3月時点/国内製造品500mℓPETボトルを対象。

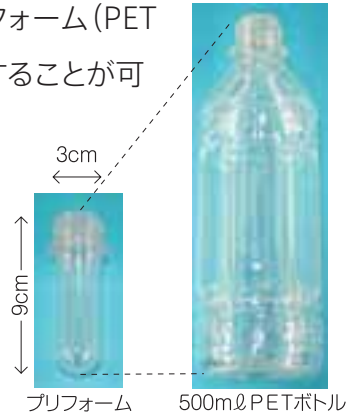
(日本コカ・コーラ(株)調べ)



PETボトルの自社成形による輸送量の軽減

製品に使用するPETボトルは、従来ボトルメーカーで成形されたものを札幌工場まで輸送していました

が、2002年のボトル成形機導入によって、520mℓ以下のPETボトルをプリフォーム (PETボトルの原形) から成形することが可能となりました。約8分の1の容積のプリフォームを運ぶことで輸送効率が向上し、環境負荷が大幅に削減されました。



クールビズ・ウォームビズを実施

環境省の地球温暖化防止に向けた取り組みの1つである「チームマイナス6%」に、当社も協力しており、オフィス室温を夏季28℃、冬季は20℃とする「クールビズ」「ウォームビズ」を2005年より全社で実施しています。この結果、本社では年間発生するCO₂の量を約120t(25%)削減することができました。



北海道の広大な大地に育まれたおいしい天然水

「おいしい」と「環境にいい」を実現した新ウォーターブランド

2009年5月より新発売した「い・ろ・は・す (I LOHAS)」は、札幌工場 (札幌市清田区) で採水された地元北海道のおいしい天然水(※1)です。

地産地消による輸送エネルギーの低減や、国内最軽量で飲用後には軽い力でコンパクトにしぼる(つぶす)ことができる(※2)ペットボトルの採用など、環境にも配慮した製品です。また、当社は良質で豊かな清田の地下水を活かした食品産業として、札幌市清田区の「清田ふるさと遺産」にも登録されており、「い・ろ・は・す」は、地下約300mから汲み上げた水を使用し、製造された天然水です。



※1) 北海道地域販売分、520mℓPETボトル。一部店舗での取り扱い商品は除く。 ※2) 自治体の空容器の分別回収方法に従う。

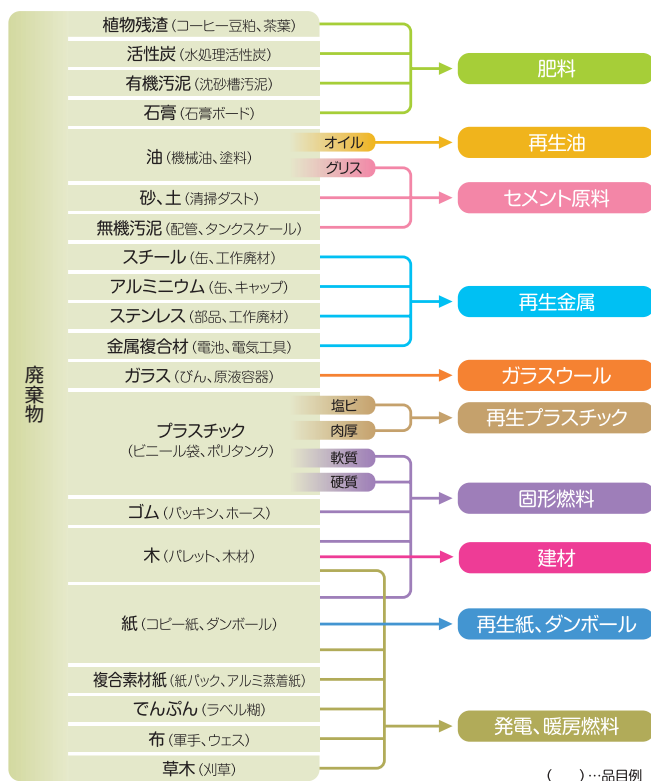
私たちは環境への負荷が少ない循環型社会を目指しています。



札幌工場は「ゼロエミッション」

札幌工場では、2000年より廃棄物の埋め立てと単純焼却処理を一掃し、すべてをリサイクルする「ゼロエミッション」活動に取り組み、2001年11月末時点で目標を100%達成しました。今後も「ゼロエミッション」活動を継続していきます。

ゼロエミッションの内容



工場廃棄物排出量

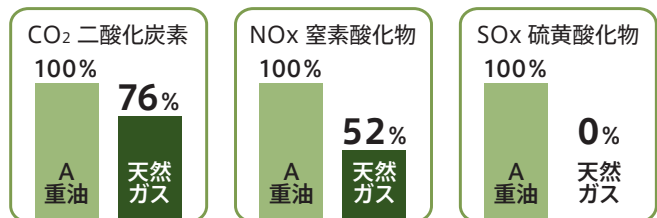
(単位：t)

	2006年	2007年	2008年
コーヒーかす・茶かす	4,108	3,920	3,334
紙類	160	226	217
プラスチック類	140	130	116
金属類	77	86	95
汚泥	16	29	25
ガラス類	174	16	10
一般廃棄物 他	2	1	2
合計	4,678	4,408	3,799

※四捨五入のため、合計が合わない場合があります。

ボイラー燃料に「天然ガス」を使用

札幌工場では、ボイラー設備を改造して、2002年3月から、すべての生産設備用のボイラー燃料を、「A重油」から不純物を含まないクリーンな燃料である「天然ガス」に切り替えました。



北海道のきれいな「水」を守るために

1) 水使用量の削減

札幌工場では、容器の洗浄水、製品の殺菌工程からの回収水や、冷却水などを循環利用するため、2003年に節水設備を導入しました。これにより、約2,400 m³/日(20時間稼働時)の節水が可能になりました。

2) 工場排水処理

札幌工場では、「ラグーン処理方式」と呼ばれる専用施設で排水を処理し、国の排水基準を遵守しています。これは微生物の自己浄化サイクルを利用した余剰汚泥発生量が少ない排水処理システムです。



COD, BOD 濃度

(単位：mg/ℓ)

	排水基準 許容限度(日間平均)	2006年 最大値(日間平均)	2007年 最大値(日間平均)	2008年 最大値(日間平均)
COD	160 (120)	42.0 (10.9)	15.0 (9.5)	14.6 (9.4)
BOD	160 (120)	10.1 (2.5)	3.8 (2.4)	4.7 (1.8)

美しい北の大地を守るため、大切な資源もぐるぐるとまわそう。

自動販売機のリサイクル

2008年に耐用年数経過等により廃棄した自動販売機等は約5,600台です。廃棄自動販売機は、金属・非金属などに分別され、リサイクル・埋立て・焼却等の方法で処理します。この結果、金属類を中心に自動販売機の約90%がリサイクルされています。また、廃棄自動販売機のフロンは自社グループで回収し、適正に処理しています。

分別	処分内容
鉄屑	鉄鋼原料としてリサイクル (硬貨選別装置および紙幣識別装置を含む)
ステンレス	再生ステンレスとしてリサイクル
アルミニウム	アルミニウムをリサイクル(二次合金)
被覆銅線	銅をリサイクル(ナゲット処理)
銅系金属	非鉄金属としてリサイクル
電池	水銀、カドミウム、ニッケルなどをリサイクル
蛍光灯	水銀、ガラス、金属(口金)をリサイクル
プリント基板	貴金属をリサイクル
プラスチック	再生プラスチックとしてリサイクル
廃油	焼却処理
シュレッダーダスト	管理型埋立て処理
フロン※	焼却破壊処理

※フロンへの対応

オゾン層に影響を与えるフロン(CFC・HCFC)を冷媒として使用する自動販売機の新規導入を中止し、オゾン層にまったく影響を与えない代替フロン(HFC)への切り替えを進めてきました。さらに、地球にやさしい「ノンフロン型自動販売機」の導入を進めています。

フロン回収・破壊量

(単位: kg)

	2006年	2007年	2008年
フロン回収・破壊量	1,598	1,881	1,532

紙カップのリサイクル推進

カップ自動販売機で使用済みとなった紙カップの回収・リサイクルを推進しています。また、本社で使用するトイレトペーパーは、2000年9月より紙カップのリサイクル品を購入し使用しています。

使用済み空容器のリサイクル推進

大切な資源である空容器の回収とリサイクルを推進しています。回収した空容器は、自社又は専門の業者によりPET・アルミ・スチールなど材質別に分別され、再度資源として有効活用されます。

国内の容器別リサイクル率 (2007年度)

アルミ缶	92.7%	アルミ缶リサイクル協会
スチール缶	85.1%	スチール缶リサイクル協会
PET ボトル	69.2%	PET ボトルリサイクル推進協議会
ガラスびん※カレット利用率	95.6%	ガラスびんリサイクル促進協議会

グリーン調達・グリーン購入

当社のユニフォームには、PET再生繊維(ポリエステル)を53%以上使用しています。

空容器回収ボックスは、PET・PE・PPなどの再生プラスチックを使用しています。

文具・事務用品および名刺は、再生品などの環境面に配慮された製品を購入しています。



業務のなかにリサイクルを組み入れ、
資源やエネルギーを大切に使っています。



環境会計

2008年における当社環境保全活動の取り組み内容と結果を環境会計(環境省ガイドライン参考)で表しました。

環境保全コスト

工場の省エネを目指した設備投資を以前より積極的に推進しています。

コスト面においては、北海道との協定に基づく環境保護活動への寄付により、社会貢献コストが増加しています。

一方、廃棄物の分別処理推進や使用済み空容器の回収・リサイクル費用の見直しなどにより、上・下流コストは減少しています。

環境保全コスト

(単位:千円)

項目	主な取り組みの内容	2006年		2007年		2008年	
		投資額	費用額	投資額	費用額	投資額	費用額
1.事業エリア内コスト	計	29,000	137,916	2,020	155,881	22,618	137,827
(1)公害防止コスト	工場排水処理 他		49,789		71,186		61,255
(2)地球環境保全コスト	工場節水設備・省エネルギー設備 他	29,000	35,568	2,020	33,433	22,618	28,791
	自動販売機のフロン回収・破壊		14,622		18,966		16,136
	クリーンエネルギー車導入(天然ガス車・ハイブリッド車)		557		1,691		1,290
(3)資源循環コスト	各事業所の廃棄物の処理・リサイクル		31,113		22,477		26,321
	自動販売機の処理・リサイクル		6,267		8,128		4,034
2.上・下流コスト	計		76,648		79,867		74,519
	空容器の回収・リサイクル		35,081		35,598		27,209
	空容器回収ボックス・空容器回収用ポリ袋		40,956		43,763		46,943
	再商品化委託費 他		611		506		367
3.管理活動コスト	計		30,261		30,712		35,613
	環境負荷の測定		22,322		21,932		25,367
	eKOシステム構築・運用、環境コミュニケーション		7,939		8,780		10,246
4.社会活動コスト	計		4,750		5,499		17,221
	業界団体活動、環境支援活動 他		3,697		4,448		16,170
	本社構内緑化保守		1,053		1,051		1,051
合計		29,000	249,575	2,020	271,959	22,618	265,180

環境保全効果

省エネ型自動販売機の積極的導入による使用電力量の削減、オフィスでの省エネの徹底、エコドライブの推進やクリーンエネルギー車の導入による車両燃料削減などにより、CO₂排出量・エネルギー使用量を削減することができました。

今後も環境への負荷を低減するため、効果的な環境保全活動を継続していきます。

効果1 環境保全効果

項目	単位	2006年	2007年	2008年	
		実績値	実績値	実績値	対前年増減率(%)
総エネルギー(熱量換算)	GJ	1,844,576	1,786,448	1,707,910	-4.4%
CO ₂ 排出量	t-CO ₂	85,296	82,756	79,123	-4.4%
NO _x 排出量	燃焼設備	7.7	8.0	7.6	-4.9%
	車両	66.3	64.6	62.1	-3.9%
水使用量	m ³	1,275,609	1,389,858	1,428,472	2.8%

効果2 環境保全対策に伴う経済効果

(単位:千円)

内容	2006年	2007年	2008年
リサイクルにより得られた有価物の売却額(自動販売機、缶、PET、プラスチック、古紙等)	21,145	50,174	62,949

<集計方法について>

・CO₂は電力・燃料より、NO_x・SO_xは燃料より算出しています。(SO_xは排出量が微量であるため、環境保全効果の表中には記載していません。)

・燃料由来のCO₂排出量は、「地球温暖化対策推進法施行令」に基づく換算係数より算出しています。

・電力由来のCO₂排出量は、電気事業連合会のCO₂排出原単位(2004年度)より算出しています。

・NO_x排出量は、環境省「環境活動評価プログラム」の排出係数より算出しています。

・SO_x排出量は、燃料の組成より理論値を用いて算出しています。

・管理・営業の項目には、物流倉庫の数値を含めています。

・車両の項目には、敷地内で使用するフォークリフト及び当社製品等を運搬している外部委託車両の燃料使用量を含めています。

未来へ想いをつなぎ、 豊かな夢を咲かせたい。

環境について考える「機会」を提供(P23もご参照ください)

札幌市円山動物園に「地球と仲良くする心」や「人と動物たちと仲良くする心」をテーマに、「ネイチャーカフェ・アース」をオープンし、地元産食材のメニューなどを提供しています。



また、旭川市旭山動物園においても、動物たちを通じて、自然保護の大切さを考える休憩施設「やすらぎの森」を寄贈するなど、環境について考える「機会」を提供しています。



従業員コメント

法人営業部

法人第三課 花輪 祐也

動物を通して、生態系や環境について考える機会を提供している動物園。「園内に、ゆったりとした空間を設け、環境の尊さについて話すきっかけを提供することで、動物園の環境教育機能を支援したい。また、北海道産の安全で安心な、魅力ある『食』の提供を通じ、来園者が過ごす時間をより楽しく彩るお手伝いをしたい。」

その想いでネイチャーカフェ・アースの店舗運営や環境啓発イベントの企画等に努めています。是非、次のお休みは大切な人と動物園へお越しください。



森に学ぼうプロジェクト 「わくわく体験ランド北海道」を開催

2006年より毎年、当別町(道民の森)の「コカ・コーラの森」で、親子で苗木を植樹するほか、ネイチャーゲームを通して「自然とふれあうことの楽しさ」を体験する取り組みを行っています。



環境教育・保全活動を応援

財団法人コカ・コーラ教育・環境財団では、毎年地域の環境教育・保全活動を行っている個人・団体を表彰し、その活動を応援しています。



受賞した標茶高校の皆さま

2008年度は、道内で「北海道標茶高校」(標茶町)、「北海道藻岩高校」(札幌市)、「愛林少年団」(江別市)、「真駒内水辺の楽校」(札幌市)の4団体が受賞しました。また、夕張郡栗山町の廃校を自然・環境教育及び文化スポーツの体験学習のための宿泊施設「^{うんべつ}雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス」として再生するプロジェクトが進められ、2009年にオープンします。



雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウス

地域の元気とともに、
多様な環境活動を応援しています。



青少年の環境活動を応援

札幌市内の小学生サッカーチームが、環境活動レポートやゲームを通じてポイントを競い合う「かんきょうみらいカップ」を継続して応援しています。



環境みらいカップ2008

また、当社が北海道地区の幹事として活動している、「社団法人食品容器環境美化協会」の「第9回環境美化教育優良校表彰」事業において、北海道からは「伊達市立大滝小学校」と「恵庭市立島松小学校」が選ばれました。



伊達市立大滝小学校の皆さま

北海道の環境保護活動に寄与

北海道の環境保護活動を支援するため、2007年「ジョージア サントスプレミアム 北海道限定デザイン缶」の売上金の一部を、販売数に応じて寄贈する協定を北海道と締結し、2008年は約1,200万円を贈呈しました。



ガイアナイトへ参加

道民一人ひとりが地球環境問題を考え、行動する契機とすることを目的に「北海道洞爺湖サミット道民会議」が主催する「電気を消して、ローソクの光で時を過ごす“ガイアナイト”」に当社も参加しました。



使用済みPETボトルを使用した行灯を点灯し、ガイアナイトへ参加

環境美化活動に参加

「世界自然遺産・知床地区の美化運動」をはじめ、「あしりべつ川の清掃活動(札幌市清田区)」、函館市の「クリーン・ウォーキング作戦」、洞爺湖周辺の「よごさんキャンペーン」などの地域の環境美化活動のほか、道内各地で実施された「北海道洞爺湖サミット・おもてなしクリーンアップ運動」に参加しました。また、各事業所では、毎月周辺地域の清掃活動も実施しています。



環境イベントへの参加

「北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展2008」をはじめ、「北海道洞爺湖サミット展」、「はこだてエコフェスタ」など、各地域の環境イベントやシンポジウムへ積極的に参加しています。なお、「はこだてエコフェスタ」では、売上金の一部により購入した環境教育教材を函館市へ寄贈しました。



北海道洞爺湖サミット記念 環境総合展2008

[安全な製品の提供]

さらなる安全と安心を 追求していきます。

全社でISO9001:2000の認証を取得

2007年2月、全社(製造・販売・管理部門)を対象に、品質マネジメントシステムの国際規格〔ISO9001:2000〕の認証を取得し、グループ全員で経営品質を高めていく活動に取り組んでいます。

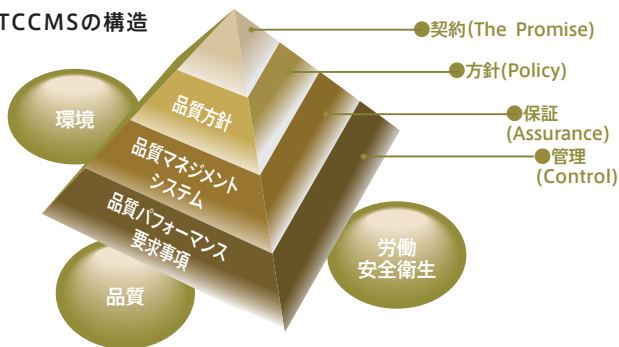


ISO9001:2000認証

製造部門の取り組み

札幌工場は、コカ・コーラシステム独自の総合品質保証システムであるTCCMS(The Coca-Cola Management System)によって工程管理・監視を行い、製品の安全性を追求するとともに品質の向上を図っています。また、安全・安心の品質を守るために、複数の検査士による味覚検査や、製造設備の徹底したメンテナンスの実施、また使用する水質の安全性の保証に努めています。そのほか改善活動発表会などを通じて、業務の改善活動を継続的に推進しています。

TCCMSの構造



※TCCMSには、ISO9001(品質マネジメントシステム)、HACCP(危害分析重要管理点方式による管理)、ISO14001(環境マネジメントシステム)、OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)の要求事項が含まれています。

新鮮な製品をお届けするために

お客さまのお手元に届くまでの鮮度管理目標や製品取扱管理基準を設け、賞味期限切れや容器不良の根絶に取り組んでいます。特に、自動販売機における賞味期限切れの防止については、自動販売機へ商品を装填する営業担当者が、適性本数の装填と補充時のチェック活動を行っています。そのほか、工場倉庫出荷から自動販売機へ装填されるまでの管理や在庫の適正化、缶ウォーマーの温度管理などのガイドラインを設定し、安全かつ高品質な製品とサービスの提供に努めています。



従業員コメント

北海道コカ・コーラプロダクツ
株式会社 札幌工場 生産部
製造第三課 稲場 周一



札幌工場では、数多くの品質管理項目について責任を持ってチェックし、安全で高品質な製品をお客さまにお届けしています。

北海道の天然水を国内最軽量ボトルに詰めることで、「おいしい」と「環境にいい」を実現した「い・ろ・は・す」も製造しています。この製造に関しては技術的に難しいこともたくさんありますが、お客さまの信頼と安心を継続的に得られるよう、従業員の力を結集して取り組んでいます。

より高い品質の「おいしさ」と
「さわやかさ」をお届けするために。



お客様の声を大切にします

私たちは当社の窓口である「お客様相談室」に寄せられる、ご指摘・ご提案・お問い合わせなど、お客さまからいただく声を大切にしています。

ISO 10002への適合を宣言

お客さまへの対応について、ご指摘(苦情)対応に関する国際規格〔ISO10002〕に適合していることを確認し、2007年8月に適合を宣言いたしました。

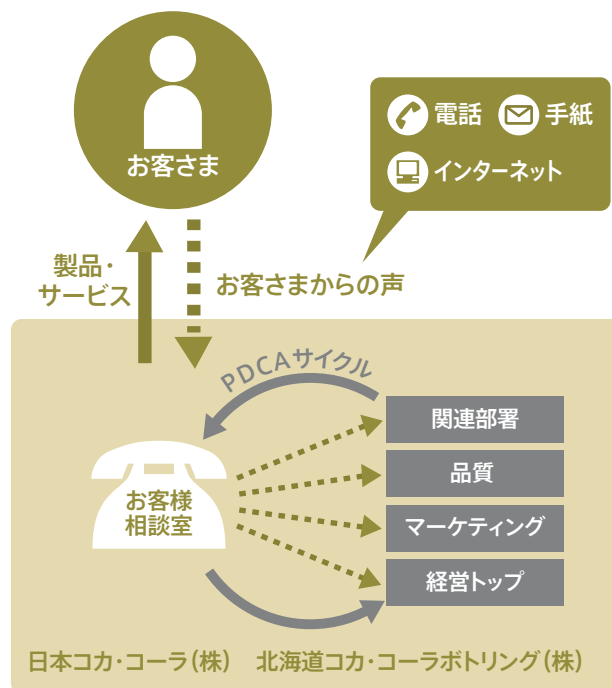
基本理念

私たちは、生活者やお客さまに「さわやかさと潤い」をお届けしたいと考えています。

お客さまとのコミュニケーションを大切にし、お客さまへ安全で安心できる製品、サービスを提供するとともに、お客さまの声を積極的に企業活動に活かし、地域のみなさまから「信頼され、認められる企業」を目指してまいります。

基本方針

- (1) お客さまの声を真摯に受け止め、公正、公平で透明性の高い対応を心掛けるとともに、迅速、適切に行動します。
- (2) お客さまとの大切なコミュニケーションの機会ととらえ、積極的な情報提供を行います。
- (3) 社会に対する責任を自覚し、関連する法的、倫理的な要求事項や自主的基準を遵守します。
- (4) お客さま満足の向上を目指して、常に最善を尽くします。



お客様相談室

サワヤカコーク

0120-308509

(土日祝祭日を除く9:30~17:00)

URL <http://www.cocacola.co.jp>

あっ、ここにも、あそこにも コカ・コーラの応援が。

YOSAKOIソーラン祭りに参加

初夏の札幌を彩る「YOSAKOIソーラン祭り」をオフィシャルスポンサーとして応援しています。2008年の第17回は参加330チームとなり、観客動員数も202万人を超えました。当社は、地元の札幌国際大学と協働して「コカ・コーラ札幌国際大学チーム」として第3回より連続して参加しています。



2008年 セミファイナル進出
東京ディズニーリゾート賞受賞

北海道の冬の風物詩に参加・協賛

2000年から毎年、札幌市内で「コカ・コーラクリスマス電車」を運行し、クリスマスの華やかなムードをより一層盛り上げています。また、「ミュンヘン クリスマス市 in Sapporo」では、会場となった大通公園にて温かな飲み物などを提供しました。

「さっぽろ雪まつり」では、協賛とあわせて、Qoo(クー)との撮影会など来場者イベントを行いました。さらに、特別企画「夢灯り」に当社社員40名がボランティアとして参加して、市民の方々の手作りキャンドルを会場に設置し、雪まつりの60回目の誕生日を祝いました。



さっぽろ雪まつり特別企画「夢灯り」

プロスポーツ団体とともに北海道を応援

2007年より、「北海道日本ハムファイターズ」とスポンサー契約を結び、応援キャンペーンを展開しています。2008年8月にはスポンサーデーとして「コカ・コーラ HAPPINESS GAME」を開催しました。また、北海道のプロサッカーチーム「コンサドーレ札幌」とは、2003年よりスポンサー契約を結び、マーク入り自動販売機(ドーレBOX)を設置し、売上金の一部を運営資金として協賛しています。これからも北海道のプロスポーツの振興と地域の活性化を応援していきます。



コカ・コーラHAPPINESS GAME

QooとB・Bが食育体操

2007年6月よりQooが、「北海道日本ハムファイターズ」の球団マスコットB・Bと一緒に道内各地の幼稚園や保育園を訪問し、「ちゃんと食べよう体操」(通称:Qoo食育体操)を通じて、子どもたちの食育を応援しています。これまでに約260カ所を訪問し、35,000名以上の子どもたちと交流しました。



QooとB・Bとのコラボレーション

地域との交流、
きずなを大切にしています。



スポーツで青少年の育成を支援

コカ・コーラシステムでは、「社団法人日本一輪車協会」への支援を行っており、当社は「さわやか北海道一輪車競技大会」などに毎年協賛しています。また、「北海道中学校駅伝競争大会」や「清田区少年少女大なわとび大会」への協賛など、スポーツを通じた青少年の健全な育成活動を支援しています。



清田区少年少女大なわとび大会

「こどものまち」にカフェを出展

2008年10月に開催された「こどものまち ミニさっぽろ2008」に「コカ・コーラカフェ」を出展し、仮想の町で働く子どもたちへ身近な商品を通じて就業体験ができる場を提供しました。



地元のお祭りやイベントを応援

「白旗山フェスティバル」(札幌市清田区)をはじめ、道内各地域で開催されるお祭りやイベントなどを積極的に応援しています。



函館港まつり

学生への教育支援活動

「高円宮杯全日本中学校英語弁論大会」を、1963年より協賛しています。また、「財団法人 コカ・コーラ教育・環境財団」の北海道支部として、学生に奨学金を支給する育英活動を行うとともにインターンシップの受け入れなど、教育支援活動を推進しています。

41年目、福祉施設にプレゼント

1968年より、毎年道内各市町村の福祉施設に、クリスマスプレゼントとして当社製品をお届けしています。2008年は約7万本の寄贈を行い、1968年からの累計は215万本となりました。



各種団体への支援活動

自動販売機の売上の一部を、「財団法人 北海道肢体不自由児者福祉連合協会」をはじめ、「社団法人 北海道漁船海難防止・水難救済センター」、「NPO法人 全国精神障がい者地域生活支援センター」などの社会活動に役立てていただく取り組みを進めています。



地域のたくさんの笑顔を、明日につなげるために。

住所表示のステッカーを貼付

屋外設置の自動販売機には住所を表示して、事件・事故など緊急時に通報する際、場所の特定ができるよう取り組んでいます。



小樽市のまちづくりを応援

小樽市の歴史的な財産を後世に引き継ぎ、個性豊かな魅力あるまちづくりを、小樽市民や同市を訪れる



方たちとともに推進するため、「小樽ファンが支えるふるさとまちづくりへの寄付に関する協定」を小樽市と締結し、自動販売機の売上金の一部を寄付しています。

「北海道洞爺湖サミット」を応援

「北海道洞爺湖サミット開催記念缶」の発売や、地域の安全を呼びかけるポスターを自動販売機に掲出するなど、地元企業としてサミットを応援しました。



「シーニックナイト」に協賛・参加

2007年より「灯りがつなく雪のみち」をテーマに、シーニックバイウェイ北海道の支笏洞爺二セコルートをキャ



ンドルの灯りでむすぶ「シーニックナイト」に協賛参加しています。



「松前町さくらと城のふるさとづくり基金」に賛同

松前町の観光地などに設置している自動販売機の売上金の一部を「さくら」と「松前城」を守る松前町の「松前町さくらと城のふるさとづくり基金」に寄付しています。

私たちは北海道の夢、
みなさまの夢と一緒に育てます。



魅力ある北海道の お手伝い

観光地などでは、景観に合
わせて特別な外装を施した自動
販売機を展開しています。



大空町 芝桜公園

自動販売機の 利便性向上

複数の電子マネーに
対応したキャッシュレ
ス自動販売機の導入
を進めています。



知床世界自然遺産の 環境保全活動を応援

知床地区における自然保護活動に対する応援
事業として、斜里町、羅臼町と、町内に設置した
すべての自動販売機において売上金の一部を
寄付する協定を締
結しています。



学生のボランティアをお手伝い

旭川市の高校生と連携して旭山動物園を応援
しています。



従業員コメント

リテール事業部 旭川販売部 黒木 聡

私は営業という仕事柄、毎日たくさんの方にお会いしますが、全ての方が当社のお客さまという意識で接し、一人でも多くの方に「北海道コカ・コーラ」を好きになって頂くことで、のどが渇いた時には、当社製品を選んでいただけるような活動を心がけています。また、未来の子どもたちへ「夢を持てる北海道」を残していくために、行政・民間・地域住民と手を取り合い、多くの笑顔あふれる活動を進めていきます。



人々の暮らしの中に 「安全・安心の心」を届けたい。

2006年7月より推進、全道に広がる 「子どもの安全を見守る運動」

当社は「大人だけが子どもの安全を守ることができる」というコンセプトのもと、官民が一体となって「子どもの安全を見守る運動」を推進することを北海道へ提案し採択されました。当社ではグループをあげて、全道の事業所と車両(約1,200台)にポスターやステッカーを掲出し、子どもたちの安全を見守っています。今では25,000台の車両が参加する道民運動に拡大しています(2009年3月末現在)。



角野社長から高橋北海道知事へ当社が企画・デザインしたポスター、ステッカーを寄贈(2006年7月)



車両ステッカー

防犯運動を全道に展開

「子どもの安全を見守る運動」の補完と、さらなる安全・安心な地域づくりを目指して電光掲示板付き自動販売機を活用した「防犯ほっとインフォメーション」を各警察署との協働で展開しています。また、各事業所では地元警察署との防犯ミーティングを定期的を実施し、自主防犯意識の高揚を図っています。このほか防犯ポスターを自動販売機に掲出するなど、全道で警察署と連携して安全・安心なまちづくりを推進しています。



北海道全域の防災パートナー

2006年12月、当社は地域の飲料水備蓄基地の代行を柱に、道内全市町村を包括する「災害時における飲料の供給等防災に関する協力協定」を北海道と締結しました。この協定に基づき、電光掲示板付き自動販売機設置を活用した、各市町村との協働の取り組みを展開しています。また、北海道が主催する「北海道防災総合訓練」をはじめ、各地域の防災訓練に参加して、飲料物資の輸送訓練や電光掲示板付き自動販売機のデモンストレーションなどを実施しています。



地域社会の安全に向けて、
多彩な協働活動を展開しています。



札幌市との協働

2008年4月、札幌市と「もっと素敵な動物園づくり」を目指し、円山動物園における「環境協働事業に関する協定」を締結しました。同年7月には、この協定の一環として、円山動物園内に環境について楽しく学べる「ネイチャーカフェ・アース」をオープンしたほか、北海道の野生動物復元プロジェクト「オオワシ・プログラム」にも参加しています。

2009年1月には、札幌市と本社のある清田区の一層の発展と飛躍を目指して「さっぽ



ろまちづくりパートナー協定」を締結しました。この協定に基づき、清田区役所より地域情報などを発信する「きよっち情報ステーション」などを推進しています。また、清田区のさまざまなイベントを応援するほか、従業員と札幌国際大学YOSAKOIチームとの連携で、近隣の高齢者宅などの除雪ボランティアを実施しています。



旭川市との協働

2008年4月、旭川市と「魅力的なまちづくりに関する基本協定」を締結し、旭山動物園内に休憩施設「やすらぎの森」を寄贈したほか、市からのさまざまな地域情報を配信する「デジタル通信あさひかわ」を展開しています。



函館市との協働

2009年3月、函館市と「協働・共創のまちづくりに関する協定」を締結し、函館開港150周年記念事業を支援するほか、さまざまな取り組みを進めています。



北海道の地域振興を目指した協働

「競争力ある美しく個性豊かな北海道の実現」等を目指して、2006年9月に国土交通省北海道開発局と協定を締結しました。この協定に基づき、「道の駅」で道路情報や地域情報などを配信する「おしらせ道ねっと」を全道に展開しています。また、美しい景観や自然、文化などを通じ魅力的な北海道を目指す「シーニックバイウェイ北海道」の応援として、新千歳空港内「コカ・コーラリフレッシュコーナー」などでPR映像の放映を行っているほか、地域振興やまちづくりを目指したさまざまな取り組みを推進しています。

ネットワークで築く 安全・安心と魅力的なまちづくり。

地域防災力強化を支援する 「防災協力自動販売機」

平常時からの地域防災力強化と、地域住民に対する情報提供サービスの向上を目指して、北海道や各市町村との協働事業として、防災情報や災害情報、地域情報などを配信するほか、災害発生時には自治体の判断で自動販売機内の飲料を無料で提供する「防災協力自動販売機」を展開しています。



道の駅での情報提供「おしらせ道ねっと」

各市町村と国土交通省北海道開発局との協働による道の駅などでの新たな情報提供事業として、道路利用者の方々に、道路情報や地域情報を配信するほか、災害発生時には自治体の判断で自動販売機内の飲料を無料で提供する「おしらせ道ねっと」を展開しています。



安全・安心な地域づくり 「防犯ほっとインフォメーション」

北海道警察並びに地域の警察署と日頃から地域の防犯意識を高め、さらなる安全・安心な地域づくりを目指した協働事業として、防犯広報や身近な生活犯罪情報、事件情報などを配信する「防犯ほっとインフォメーション」を展開しています。



魅力的なまちづくりを応援 「地域情報ネットワーク」

旭川市とは「デジタル通信あさひかわ」、札幌市とは「円山動物園情報」「きよっち情報ステーション」、函館市とは「はこだて情報ステーション」として、地域のみなさまや当地を訪れる方々へ、まちの魅力や、行政情報、観光情報などを配信する「地域情報ネットワーク」の取り組みを展開しています。



地域のネットワークを支える「電光掲示板付き自動販売機」とは？

パソコンからのインターネットを活用した遠隔操作により、自動販売機の上部に搭載されている電光掲示板に、文字情報をリアルタイムで表示することが可能です。また、同様の遠隔操作により、自動販売機内の飲料を、無料で提供できるように設定することができます。

この機能を活用して、自治体・行政から、防災情報や災害情報、地域のイベント情報、おしらせなどの各種情報を配信するとともに、災害発生時には、自治体の判断で自動販売機内の飲料を無料で提供します。

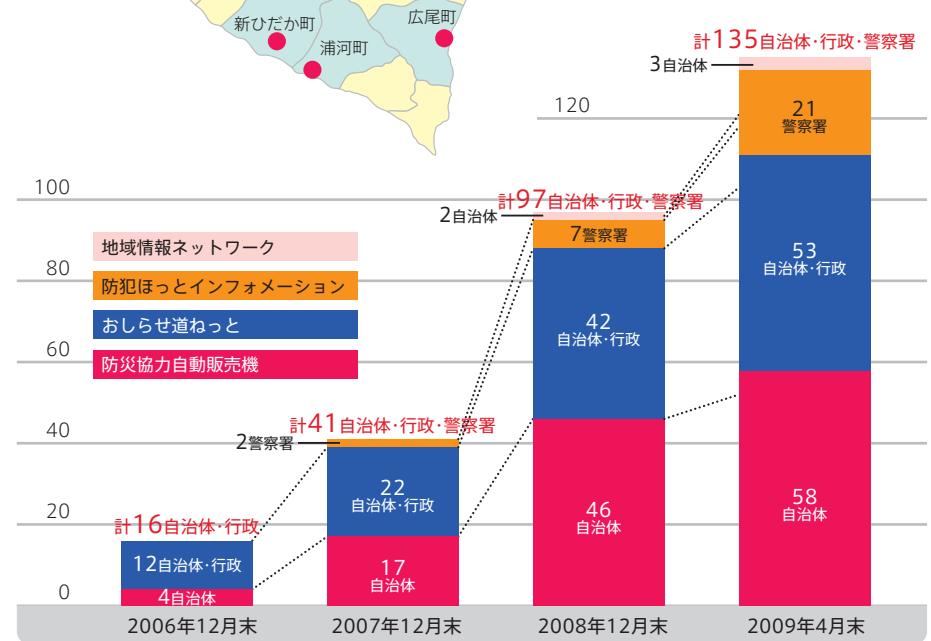
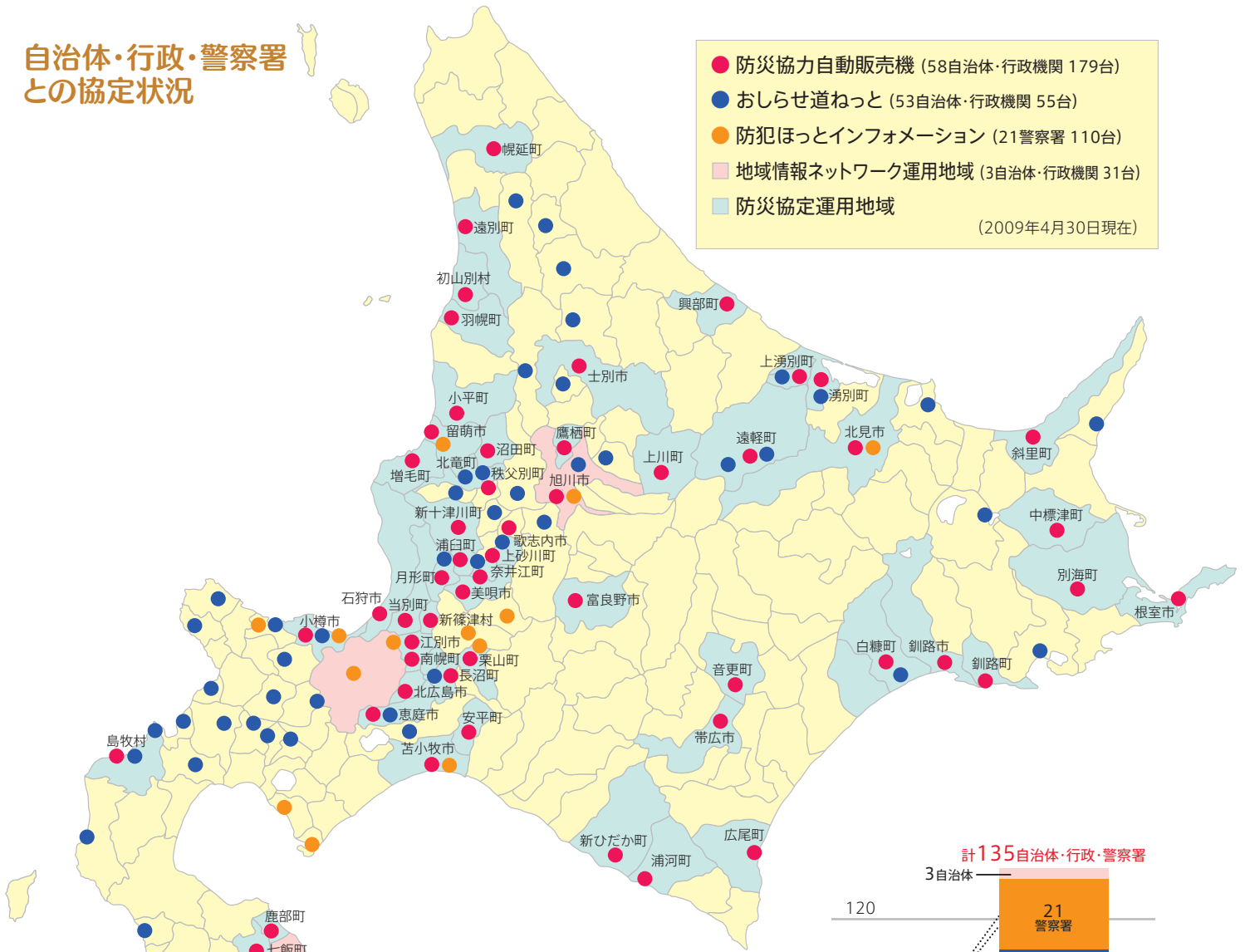


私たちは、つねに地域のベスト
パートナーでありたいと考えます。



自治体・行政・警察署 との協定状況

- 防災協力自動販売機 (58自治体・行政機関 179台)
 - おしらせ道ねっと (53自治体・行政機関 55台)
 - 防犯ほっとインフォメーション (21警察署 110台)
 - 地域情報ネットワーク運用地域 (3自治体・行政機関 31台)
 - 防災協定運用地域
- (2009年4月30日現在)



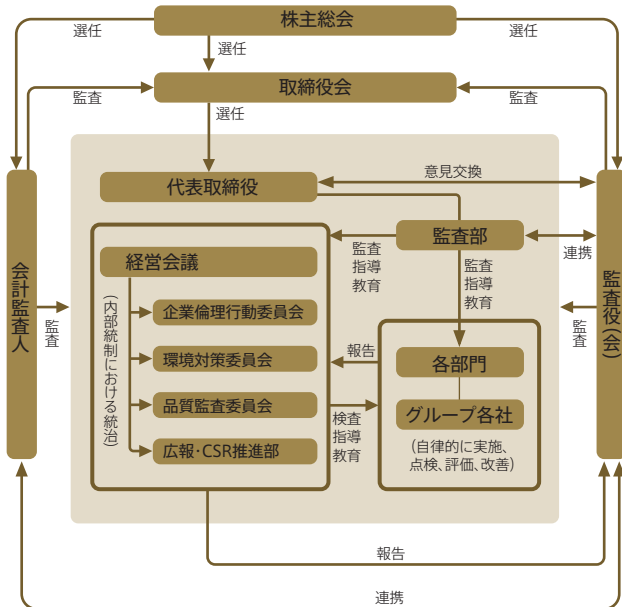
[最高の職場としての誇り]

いま企業としての責任と行動力が求められています。

企業としての社会的責任を果たす

企業倫理とコンプライアンスの重要性を認識し、企業の社会的責任(CSR)を果たすことを経営上の最も重要な課題の一つと位置づけています。お客さま、株主・投資家のみなさま、お取引先さま、社員など、さまざまなステークホルダー(利害関係者)との良好な関係を築くとともに、的確な経営の意思決定、それに基づく業務執行、適正な監督・監査を可能とする経営体制を構築し、総合的にコーポレート・ガバナンスの充実が図られるよう努めています。

コーポレート・ガバナンスおよび内部統制の模式図

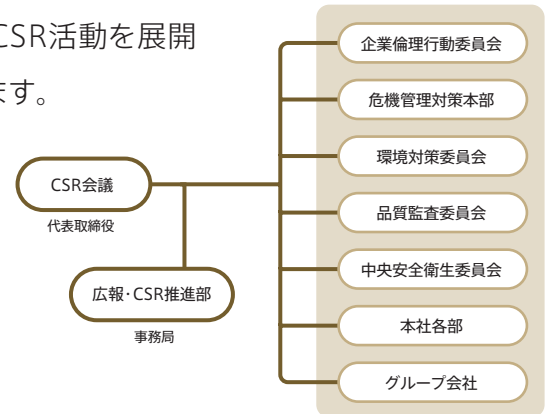


企業倫理活動への取り組み

良き企業市民であり続けるために、1997年12月に設置した「企業倫理行動委員会」のもと、企業倫理活動を推進しています。また、社員が上長などに相談しにくい場合の相談窓口として匿名性の確保と相談内容の機密保持に万全を期した「オープンドア・ルーム」を運用しています。

CSR会議の定例開催

CSR経営を推進するうえでの現状分析と課題の抽出に取り組み、地域に貢献する企業市民として適切な活動ができるよう、各委員会や本社各部門・グループ会社で構成する「CSR会議」を定例開催し、グループ全体として組織的なCSR活動を展開しています。



個人情報の保護について

お客さま・お取引先さまをはじめとする個人情報の重要性を認識し、2005年4月に完全施行された個人情報保護法を遵守するため、個人情報保護ポリシーおよび個人情報保護規程を制定するとともに、eラーニングなどの社員教育やITセキュリティの強化など個人情報の保護にグループ全体で取り組んでいます。

いつまでも信頼され、
だれからも親しまれる
企業でありたいと願っています。



自己啓発と技能向上

自己啓発のための通信教育プログラムでは、仕事に役立つ知識や資格取得などのコースを用意し、業務関連のコース修了者には、受講料の50%~80%を援助しています。また、2007年2月に開設されたトレーニングセンターでは、より専門的な教育を実施しています。



応急手当協力施設の証

緊急時の対応に備え、これまでに述べ51名の社員が普通救命講習を終了し、救命技能士として認定され、札幌市清田消防署より「応急手当協力施設の証」をいただきました。



応急手当協力施設の証

本社一階に設置しているAED

障がい者の雇用について

障がい者の在籍者数は17人(うち重度障がい者6名)、雇用率は3.1%と、法定雇用率(1.8%)に達しています。これからもハローワーク等の求人活動を通じて、積極的に障がい者雇用を実現していきます。

(※2009年3月現在)

「自立型」の人材育成

地域やお客さまの多様な課題の解決に向けて主体的に行動する人材の育成に努めるとともに、自己の能力開発に積極的に取り組む社員を応援するプログラムを提供しています。

教育体系図

		管理職			一般職				
社内集合教育・研修	階層別教育	部長研修	課長研修	新任課長研修	アステップ研修	新入社員研修			
	職種共通	人事考課者研修				パソコン基礎			
		メンタルヘルス ライン研修				パソコン応用			
		IMCR・内部統制研修				財務基礎			
						企業倫理研修			
						CSR・環境研修			
	職種別教育	スタッフ	メンタルヘルス セルフ・ケア研修				個人情報管理研修		
			通信教育 CAPA				メンタルヘルス セルフ・ケア研修		
		営業	スタッフ基礎研修				品質管理研修		
			営業財務研修				アカウンタントマネージャー研修		
製造		チームリーダー研修				品質管理研修			
	ACP研修				製造基礎研修				
技術	営業基礎研修				品質管理研修				
	製造基礎研修				品質管理・安全衛生研修				
社外派遣教育	CCBC人材育成研究会	SMC研修	MC研修	BMC研修					
	DNP研修部	上級管理職研修				技術基礎研修			
		上級幹部社員研修				安全衛生研修			
		営業企画セミナー							

明るい北海道の未来のために、 一所懸命な会社です。

ようこそ!札幌工場へ

当社では、創業以来「見学ツアー」を実施しています。「製品ができるまで」を案内員がわかりやすく説明



わくわくコミュニケーションルームでのVTR上映

するほか、コカ・コーラの歴史や環境への取り組み、社会貢献活動などを紹介しています。



製品を自動で出入庫する高さ31mの立体自動倉庫の内部を見学することができます

2008年は16,000人以上のお客さまに見学していただきました。

水を扱う企業として、 未来を担う子どもたちへ

未来を担う子どもたちに水資源の重要性について理解を深めてもらうため、環境に関するイベントを数多く実施しています。2009年3月には親子100名を対象に水資源に関するクイズや空き缶・PETボトルなどの分別やエコバッグ作りが体験できるイベントを開催し、親子で環境保護を考える機会を提供しました。



工場見学イベントでエコバッグを作成

ツアーのご案内

(所要時間 約60分)



お客さまの声にお応えし、7~9月は土曜日も見学いただけます。

冷えたコカ・コーラと記念品をご用意していますので、たくさんみなさまのお越しをお待ちしています。

概要説明

15分

製造工程
立体自動倉庫見学

25分

ビデオ上映

20分

工場見学パンフレット



工場見学のお申し込み方法

工場見学はあらかじめお申し込みが必要です。
直接お電話またはお手紙でご予約ください。



■見学できる時間 毎週月曜～金曜日(午前10:00～12:00・午後1:30～4:00 祝祭日も可)
※祝祭日は一部休みの日もあります。 ※7～9月は土曜日も見学いただけます。

■所要時間 約60分(ご要望に応じて調整することができます。) お申し込み・お問い合わせ

■場所 札幌工場 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 **011-888-2091** (広報・CSR推進部 広報課)

さわやかさにまごころこめて、
さまざまな事業活動を展開しています。



沿革

1963年 1月	北海道飲料株式会社として設立
3月	コカ・コーラおよびファンタの販売を開始
9月	商号を北海道コカ・コーラボトリング株式会社に改称
12月	本社工場竣工(製品第1号誕生)
1965年10月	コカ・コーラ250ml缶の販売を開始
1966年 4月	コカ・コーラホームサイズ(500ml)の販売を開始
1967年12月	本社工場に第2ラインを増設
1970年 3月	本社工場に第3ラインを増設
1971年 5月	本社工場に第4ラインを増設
10月	スプライトの販売を開始
1972年 2月	コカ・コーラ350ml缶の販売を開始
11月	第11回冬季オリンピック札幌大会に全面協賛、支援 本社工場に缶ラインを増設し、缶製品の自社生産を開始
1973年 4月	東北満庵株式会社と合併、株式の額面金額を変更
8月	株式を東京証券取引所市場第2部および札幌証券取引所に上場
1976年 4月	ジョージアコーヒーの販売を開始
1982年 4月	機能性飲料 リアルゴールドの販売を開始
1983年 5月	スポーツ飲料 アクエリアスの販売を開始
1988年10月	本社ビル竣工(創立25周年記念事業)
1991年 4月	カナダドライジンジャーエールの販売を開始
1992年 3月	ティー飲料 紅茶花伝の販売を開始
1994年 3月	ティー飲料 爽健美茶の販売を開始
1998年 3月	ティー飲料 煌の販売を開始
1999年 5月	創業以来10億ケースの販売を達成
7月	ダイエットコカ・コーラの販売を開始
11月	果汁飲料 Qooの販売を開始
2001年 6月	紙パック製品(プリパック)の販売を開始
2002年 5月	日韓共催のサッカーワールドカップに全面協賛、支援
11月	本社工場に立体自動倉庫を新設
2003年 1月	本社工場に無菌充填ラインを増設
2005年 1月	本社工場を札幌工場に名称変更
3月	札幌工場リニューアル ティー飲料 ー(はじめ)の販売を開始
2006年 3月	コカ・コーラ社製品の製造を行う「北海道コカ・コーラボトリング株式会社」を設立
5月	コカ・コーラ生誕120周年 ティー飲料 からだ巡茶の販売を開始
7月	「子どもの安全を見守る運動」を開始
2007年 2月	全社で「ISO9001:2000」の認証を取得
6月	コカ・コーラゼロの販売を開始
2008年 5月	「ジョージア サントスプレミアム北海道限定デザイン缶」の売上金の一部を北海道へ寄付
7月	札幌市円山動物園に「nature cafe EARTH(ネイチャーカフェ・アース)」を出店

会社の概要

商号	北海道コカ・コーラボトリング株式会社 HOKKAIDO COCA-COLA BOTTLING CO.,LTD.
設立	1963年1月24日
代表者	代表取締役会長 北島 義俊 代表取締役社長 角野 中原
本社所在地	〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号 TEL(011)888-2001(総務人事部)
資本金	29億3,515万4千円
従業員数	554名(グループ1,253名)(2009年3月31日現在)
事業の概要	北海道を販売地域とした清涼飲料の製造および販売
事業所	本社、札幌工場、営業拠点(27)
決算期日	毎年12月31日(年1回)
上場証券取引所	東京証券取引所市場第2部、札幌証券取引所

グループ会社の概要

北海道コカ・コーラプロダクツ株式会社 清涼飲料水及び飲料水用容器の製造

北海道ベンディング株式会社 自動販売機による飲料、食品等の販売

幸楽輸送株式会社 コカ・コーラ社製品の工場・営業所間の輸送、一般貨物輸送、倉庫業

北海道マシンメンテナンス株式会社 各種自動販売機の修理、設置および撤去

北海道サービス株式会社 一般事務処理業務、CD・ビデオの販売・貸貸、書籍等の販売、事務機器等のリース、清掃業、損害保険代理業

企業集団の財産および損益の状況の推移

区分	第45期 (2006年)	第46期 (2007年)	第47期 (2008年)
売上高	74,121 百万円	73,494 百万円	71,731 百万円
経常利益	665 百万円	1,358 百万円	417 百万円
当期純利益	88 百万円	835 百万円	41 百万円

ボクはクマゲラ。
体長50cmにもなる日本最大のキツツキ。
シマフクロウとならんで北海道を象徴する
森の鳥なんだよ。
ボクが暮らすには食べ物が豊富にある
広大な森林が必要で、
豊かな自然の証ともいえるんだ。
このレポートでは、
北海道コカ・コーラボトリングの想いを伝える
ナビゲーターとして活躍してるよ。



編集方針

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社 CSRレポート2009」は、当社グループのCSR(Corporate Social Responsibility:企業の社会的責任)に対する取り組みをわかりやすく開示し、ステークホルダー(利害関係者)のみならずご意見をいただき、北海道の明るい未来を形づくる持続可能な活動につなげることを目的に発行しています。

本レポートは、環境省「環境報告書ガイドライン」とGRI(Global Reporting Initiative)の「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン」を参考にしました。

〔対象期間〕

2008年1月1日～2008年12月31日。実績データは2008年度、活動内容の一部は2009年度も含まれます。

〔対象組織〕

原則的にグループ連結会社を対象としています(「グループ会社の概要」参照)。

〔ご意見・ご感想〕

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、本レポートをお読みいただいたみなさまのご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

作成部署・連絡先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社
〒004-8588
札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135 [広報・CSR推進部]
ホームページアドレス
<http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>



北海道コカ・コーラボトリング株式会社

〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135(広報・CSR推進部)
ホームページアドレス <http://www.hokkaido.ccbc.co.jp/>
COCA-COLA、コカ・コーラ、GEORGIA、ジョージア、I LOHAS、い・ろ・は・す、森の水だよりは The Coca-Cola Companyの商標です。

2009年6月発行

次回は2010年5月の発行予定です。

「～北の大地とともに～北海道コカ・コーラボトリング株式会社 CSRレポート2009」をお読みいただき誠にありがとうございます。

今後の企業活動やレポートづくりの参考とさせていただくため、みなさまのご意見・ご感想を、FAXまたは郵送にてお寄せいただければ幸いです。

に印をおつけください。

- Q1** このレポートについての評価をお聞かせください。
- | | | | |
|---------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|
| ●内容の充実度 | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 不足している |
| ●情報量 | <input type="checkbox"/> 多すぎる | <input type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 少なすぎる |
| ●読みやすさ、わかりやすさ | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い |
| ●デザイン | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い |

- Q2** 特に興味を持たれた内容がありましたか？(いくつでも)
- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> コカ・コーラシステム概要 | |
| <input type="checkbox"/> 北の大地とともに | |
| <input type="checkbox"/> ごあいさつ | |
| <input type="checkbox"/> [環境経営] | 北海道の美しい自然を愛する企業市民として。 |
| <input type="checkbox"/> [マテリアルバランス] | 環境への影響を「見える化」して改善しています。 |
| <input type="checkbox"/> [環境保全への取り組み] | <input type="checkbox"/> 省エネルギーを追求し、温室効果ガス排出低減に努めています。
<input type="checkbox"/> 自然な環境を守るため、できることを一步一步。
<input type="checkbox"/> 美しい北の大地を守るため、大切な資源もぐるぐるとまわそう。 |
| <input type="checkbox"/> [環境コミュニケーション] | 未来へ想いをつなぎ、豊かな夢を咲かせたい。 |
| <input type="checkbox"/> [安全な製品の提供] | さらなる安全と安心を追求していきます。 |
| <input type="checkbox"/> [アクティブで健康的な生活の提案] | あっ、ここにも、あそこにもコカ・コーラの応援が。 |
| <input type="checkbox"/> [地域社会への浸透と貢献] | <input type="checkbox"/> 地域のたくさんの笑顔を、明日につなげるために。
<input type="checkbox"/> 人々の暮らしの中に「安全・安心の心」を届けたい。
<input type="checkbox"/> ネットワークで築く安全・安心と魅力的なまちづくり。 |
| <input type="checkbox"/> [最高の職場としての誇り] | いま企業としての責任と行動力が求められています。 |
| <input type="checkbox"/> [工場見学／プロフィール] | 明るい北海道の未来のために、一所懸命な会社です。 |

- Q3** どのようなお立場でお読みになられましたか？
- | | | |
|--|---|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> お客さま | <input type="checkbox"/> お取引先 | <input type="checkbox"/> 株主・投資家 |
| <input type="checkbox"/> 企業・団体のCSRご担当者 | <input type="checkbox"/> 行政関係 | <input type="checkbox"/> NGO/NPO |
| <input type="checkbox"/> 当社グループ社員・家族 | <input type="checkbox"/> 当社グループの事業所近隣の方 | <input type="checkbox"/> 学生 |
| <input type="checkbox"/> 研究・教育機関 | <input type="checkbox"/> 報道関係 | |
| <input type="checkbox"/> その他() | | |

- Q4** その他、ご意見・ご感想などご自由にご記入ください。
-
-

◆ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下記もご記入ください。

性別/ 男性 年齢/ 16歳未満 16～20歳 21～25歳 26～30歳 31～40歳
 女性 41～50歳 51～60歳 61～70歳 71歳以上

アンケート送付先

北海道コカ・コーラボトリング株式会社 広報・CSR推進部
〒004-8588 札幌市清田区清田一条一丁目2番1号
TEL(011)888-2135



011-883-0249

